

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	世界へ羽ばたく動機付与につながる韓国4大学訪問	
学部・研究科名	全学教育機構とグローバル教育推進センターの共催	
実施期間	2017年3月18日～3月25日	
研修先(国・都市・施設名)	韓国・ソウル(韓国カトリック大・漢陽大・崇實大)および全州(全北大)	
参加者数	： 12名	知の森基金からの支援者　： 12名
プログラム概要	プログラム参加学生は、信大同窓生、韓国の大学生および韓国に来て いる留学生にインタビューし、日韓の差を認識し、グローバル面での気づきが 得られるようになることを目指す。そのうえで残りの大学生期間をどのように 過ごせば自らのキャリアプラン上の成長につながるかを深く検討し、そのた めの方策をプログラム修了後に発表する。その検討自体が参加学生の成長 につながるよう企画する。また、韓国人学生の留学の背景にある就職難とそ ののための自己スキルアップ必要性等に参加学生が気づき、日本をかえりみ て見つめ直すきっかけとする。	

実施状況・成果

参加前は「留学は現実的じゃない」と述べる参加学生も複数いたが、訪問3校目の崇實大訪問後ぐら
いから自身の留学を真剣に考える学生が増えてきた。特に、韓国人学生の前向き・チャレンジング・時間や
友達に制約されない姿勢に強い衝撃を受けたようだ。4月から始まる2018年前期交換留学募集の日程・
必要な要件等の説明をした際も、真剣に話を聞いてさらに質問してくる者が多かった。今回の取組によ
り、自身の留学、語学力の真剣な習得、専門学習への取組(韓国の移民政策法の研究等)に取り組む学
生が大半になったことはある程度の成果だと考える。ただし、本プログラムは参加者が実際に交換留学
やハイレベルな短期研修の再挑戦など「実際の行動」につなげることが目的なので、今後1年半の間にど
の程度の学生が実際にアクションを起こすかを注視していきたい。

こういったプログラムの問題点は、留学中は盛り上がるが帰国後2カ月で熱が冷めて「ただの人」になっ
てしまうことだが、このプログラムでは終了後すぐに交換留学の募集があることで熱が維持しやすい面が
ある。また、eALPSを通じて延・佐藤の両教員からモチベーションの維持を働きかけることになっている。
参加学生の交換留学やトビタテJAPANなど、よりレベルの高い海外活動への申請に期待したい。

事前準備の段階では漢陽大を除く大学では受け入れ態勢が不明確で不安な面もあったが、実際の訪問
時には非常に真摯に温かく対応してくれた。また、カトリック大、崇實大、全北大では、先方の多くの国際
関係スタッフと交換留学や短プロ、研究交流に関する実務面の打合せを持つことができ、信頼関係を強
化することができた点も有効だった。

学生の声①ー経法学部　学生

自分の中では留学は敷居の高いものとのイメージがあったが、ワーキングホリデーを利用している人の
話を聞き、自分が思ってたほど敷居が高いものではないと認識した。加えて、自分が今、留学するのに最
適な環境であることを知り、留学をしないのはもったいないことなんだと考えて、留学に行かなければなら
ないと思うようになった。3年のはじめから韓国に留学することを見据えて、今からそれまでに、韓国
語、英語を日常会話レベルになるように、1日、最低1時間時間をとり、勉強する。加えて、留年しないよう
に、単位を取れるだけ取る。

学生の声②ー繊維学部　学生

実際に留学生がどのように大学内で生活しているのかを見て、留学したいという気持ちは強くなりまし
た。看板などの文字は違うけれど想像よりも異国だとは思いませんでした。4つの大学を訪問し、構内の
様子、学生の様子を直接見ることができ、どの大学・地域に興味が湧いたのか、一步留学が現実に近い
いたと感じています。本研修で出会った多くの人々は日本文学等の人文系と経済系の方々と、私は繊維
学部としてどのような目的をもち留学するのかをしっかりと考えなければ意味のない留学になってしまうと
感じました。

2番目の訪問校、漢陽大の前で



女子学生がハンボツ(民族衣装)を着て

